

知的障害理解のための教材コンテンツの作成とその活用

兵庫県三木市立三木養護学校 教諭 橋本 泰一

キーワード：障害のない子に障害を理解させる，知的障害，自閉症，体験的な教材，DVD の活用

1. 研究のねらい

近年小中学校に在籍する障害のある児童生徒の人数は増加の傾向にある。各小中学校では、障害のない児童生徒に障害についての理解を促すために、障害児学級の担任を中心に様々な取り組みを行っている。しかし適切な教材が少なく、なかなか有効な方法を見出せないのが現状である。

そこで本研究では障害児学級の担任以外で障害についてそれほど詳しく知らない教師でも、進んで取り上げられるような障害理解のための教材を作成することにする。作成にあたっては教材を使用する教師に対して、取り扱いやすくまた必要な情報が十分に児童生徒に伝えられるように配慮する。また児童生徒に対しては、体験を通しての学習をできる限り取り入れるようにする。以上のことを ICT 機器を用いることで達成することにする。さらに開発したコンテンツを三木市立三木養護学校（以下、本校と記す。）の web ページ上に公開することで、三木市内の小中学校で活用できるようにするとともに、多くの人たちから意見を頂きより有効性の高い教材へ改訂できるようにする。

2. コンテンツの内容

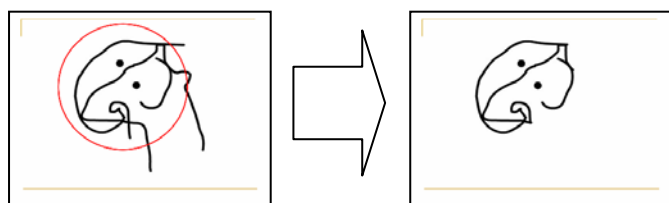
本研究で開発するコンテンツは以下の4つである。

- ①知的障害や自閉症への理解を促すための教材
- ②保護者の思いや願いを集めた動画集
- ③道徳教材中の障害理解のための教材と展開例
- ④障害理解に役立つ URL 集

(1) 知的障害や自閉症について理解を促すための教材について

①体験を通した学習

観念的な内容にならず実感を伴った学習にするために、体験をとおした学習をそれぞれの教材に取り入れるようにする。知的障害や自閉症など目に見えない障害については、パソコンソフトをはじめとする ICT 機器を使って視覚や聴覚をとおして障害ることによる不都合を感じとることのできる教材を作成し、体験したことをもとに考えさせることが有効だと考えた。



視覚情報の分解・統合ができない場合の見え方の例

②提供するメディアの工夫

教材をプレゼンテーションツールで作成し、CD と DVD で提供する。CD には、作成した教材そのものをいれた。DVD には教材のプレゼンテーションを動画に変換し、それに解説や発問のナレーションを加えた動画ファイルとして入れた。これにより、指導者がパソコンを使って自分の声で授業を進めたい場合には CD を用いることができる。一方、パソコンの操作や障害などについての説明に自信のない場合には DVD を使って授業を進めることができるようにした。なお、DVD を使う場合には DVD プレーヤーもあわせて提供するようにした。

3. 授業実践

市内小学校5年生を対象に自閉症についての理解を促す授業を行った。授業後の感想として、見え方や聞こえ方を体験することによって自閉症についてよく分かったという感想が多くあった。また DVD-R を使って授業を行ったが、事前準備が簡単にできたことと、流れが一定しており短時間で計画的な学習ができたことが利点として確認できた。

4. 今後の課題

教材の内容が一定すぎていて、変化をつけることが難しい。また、体験を取り入れたことはよい成果だと思えるが、体験したことも1つの例にすぎず、それですべてを理解することにはつながらない。今後、教材の追加・修正を進めていかなければならない。また DVD の活用については、確かに便利であり有効性が確認できた。しかし、作成段階ですべての学習場面にナレーションを入れていたため、教師の生の声で進める場面が少なかった。障害についての解説のみにナレーションを入れるようにするべきで、こちらもさらに追加・修正が必要である。